

第45回日本児童文学学会賞の決定について

日本児童文学学会賞、同奨励賞および同特別賞は、わが国の児童文学・児童文化研究の発展に寄与する、年度ごとの優れた業績に贈られます。

今回は、二〇二〇年七月から二〇二一年六月までの一年間に発表された児童文学・児童文化分野に関する研究・評論の中から、日本児童文学学会会員の推薦等をもとに、日本児童文学学会賞選考委員会（酒井昂代委員長・鶴野祐介・十居安子・成實朋子・目黒強の各委員）が選考にあたりました。ただし、選考委員の著作に関しては、当該委員は退席のうえ、選考を行いました。結果は次のとおりです。

なお、授賞式は、十一月二〇日（土）午後二時五〇分より、当学会第60回研究大会の席上にて行います。

二〇二一年一〇月

日本児童文学学会会長 宮川 健郎

第45回日本児童文学学会賞

◇齋木喜美子『沖縄児童文学の水脈』関西学院大学出版会 二〇二二年三月一〇日

【贈賞の理由】本書は、前作『近代沖縄における児童文化・児童文学の研究』（風間書房、二〇〇四年）での成果を承け、沖縄をルーツとする多くの作家や作品に光をあて、戦前から現代へと到る「沖縄児童文学」の実像に迫ろうとした力作である。特に第Ⅱ部では、歴史の中に埋没した日本統治下の「台湾」と八重山の文化交流に着目し、綿密な調査研究の上、その一端を明らかにしている。同書が提供する視座は、「沖縄児童文学」に留まらず、日本児童文学の見直しに繋がるものであり、今後の児童文学・児童文化研究の発展に大いに資するものである。

【受賞者の略歴】沖縄県生まれ。聖和大学（現・関西学院大学）教育学研究科博士後期課程修了。博士（教育学）。中京女子大学（現・至学館大学）、福山市立大学を経て、現在、関西学院大学教育学部教授。第26回沖縄文化協会賞（仲原詔賞）（二〇〇四）、第38回日本児童文学者協会新人賞（二〇〇五）、第1回外間守善賞（二〇二一）を受賞。

第45回日本児童文学学会奨励賞

◇ナーヘド・アルメリ『金子みすゞの童謡を読む 西條八十と北原白秋の受容と展開』港の人 二〇二〇年十一月六日

【贈賞の理由】本書は、大正期の童謡詩人金子みすゞの作品について、矢崎節夫によって「再発見」された三冊の童謡集を精緻に分析するとともに、みすゞが編纂した他の作家作品のアンソロジー『琅玕集』等との比較を通して、特に西條八十と北原白秋の作品世界をみすゞがどのように受容し、またどのように展開して独自の作品世界を創り出していったのかを明らかにした、優れた作家論・作品論である。外国人女性としての視点が、みすゞのライフ・ヒストリーの影響を重視した従来の研究では看過されていた新たな発見をもたらし、みすゞ童謡の研究史に表り豊かな一ページを刻んだことを高く評価したい。

【受賞者の略歴】シリア・アラブ共和国ヒムス生まれ。二〇〇九年八月、ダマスカス大学日本語学科卒業、二〇一一年九月、日本に留学。二〇二〇年三月、筑波大学大学院にて博士号（文学）学位取得。現在、ダマスカス大学日本語学科講師。

第45回日本児童文学学会特別賞

◇鶴野祐介『子どもの替え唄と戦争―笠木透のラスト・メッセージ―』叢書 文化の伝統と創造3 子どもの文化研究所 二〇二〇年八月一日

【贈賞の理由】本書は、フオークシンガーで、戦時下の替え唄の収集を行っていた故笠木透の遺族から託された資料を整理し、解説を付し、これらの資料を元に、戦時中の替え唄が子ども文化にいか位置づけられるかを、替え唄の分類、当時の子どもたちの状況、収集者である笠木透の生き方を探る中で考察した研究である。貴重な資料の発掘および、著者のこれまでの研究の積み重ねの上に立った替え唄の考察は児童文学・児童文化研究を広げ、深めた力作として、特別に意義が認められる。

【受賞者の略歴】岡山県生まれ。京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。二〇〇四年、英国エディンバラ大学大学院にて博士号（人文学）学位取得。鳥取女子短期大学、梅花女子大学を経て、現在、立命館大学文学部教授（教育人間学専攻）。